

2024年9月12日

各 位

会 社 名 プレミアアンチエイジング株式会社  
代表者名 代表取締役社長 松 浦 清  
(コード番号: 4934 東証グロース)  
問合せ先 執行役員 コーポレートコミュニケーション本部長  
上 原 祐 香  
(TEL. 03-3502-2020)

## 中期経営計画「2024-2027 +Beyond」の取り下げに関するお知らせ

当社は、2023年9月14日に公表いたしました中期経営計画（2024年7月期から2027年7月期）につきまして、2027年7月期の主要財務KPIで設定した目標を取り下げることといたしましたので、下記の通りお知らせいたします。なお、非財務的目標は、引き続き実現を目指してまいります。

## 記

## 1. 中期経営計画 主要財務KPI取り下げの背景

当社は、2023年9月14日に2027年7月期を最終年度とする4カ年経営計画を公表し、これを実現すべく様々な施策に取り組んでまいりました。しかし誠に遺憾ながら、計画の初年度となる2024年7月期の連結業績は計画を大きく下回る結果となりました。

中期経営計画期間においては、2024年7月期を、2023年7月期までの振り返りで定義した課題に対処し、成長戦略を実行できる基盤づくりを実施する構造改革フェーズと位置づけました。そして、2025年7月期以降は成長戦略の実行フェーズと位置づけ、ブランドとチャネル、資本を活用した共創とを組み合わせた成長戦略を通じて、2027年7月期の売上高400億円、営業利益率10%以上の達成を目指してまいりました。

そのため昨年より、財務上の懸念の一掃及び、コストの効率的な運用や削減への取り組みに加えて、通信販売・リテールともに事業構造の転換や財務規律の整備を進めた結果、初年度において営業利益の黒字化を達成することができました。またアンチエイジングカンパニーへの進化の基盤となる新成長領域においても、順調な成長を果たしております。しかしながら、事業環境の変化や競争環境の激化を主な要因として、当社の主力事業である通信販売の売上が当初計画を大きく下回り、またリテールも売上の成長を実現するに至りませんでした。加えて、成長領域として位置づけた海外事業においては、処理水問題や中国市場の減速の影響を受け、計画の大幅な修正を余儀なくされました。

中期経営計画初年度の実績を踏まえると、27年7月期の計画達成は困難であり定量的な目標について見直しが必要と判断し、主要財務KPIを取り下げることといたしました。他方、従来のブランド・チャネルの成長戦略の方向性、中期経営計画にて指針とした「Uniqueな価値にこだわりぬく」こと及び長期的に目指す「アンチエイジングカンパニーへの進化」といった数値目標以外の経営方針については取り下げず、引き続き実現を目指していくことといたします。

## 2. 中期経営計画の再公表および今後の開示方針について

新しい中期的な財務 KPI につきましては、当社を取り巻く経営環境を総合的に分析、検討した後に改めて設定し、準備ができ次第速やかに公表いたします。

従いまして、当面の間は経営方針や財務状況等を株主及び投資家の皆様に正しくご理解頂くための情報開示のあり方として、単年度ごとの業績見通しを公表することとし、その目標を着実に達成すべく専念してまいります。また、「事業計画及び成長可能性に関する事項」に関しましては、毎年 10 月末日の開示を予定しております。

以上

### (将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定等が含まれます。従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。